

やすらぎだより

6
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それやすらぎ園です

施設長コラムバックナンバーホームページ掲載しています。

コラム第156号

「 風が吹けば桶屋が儲かる 」

施設長 植田 誠



意外なところに影響が及ぼされるたとえの代表として‘風が吹けば桶屋が儲かる’がある。あてにならない期待をすることとして昔から使われているが、今、改めて注目されている。

昨年放映されたNHKスペシャルの番組「AIに聞いてみた どうすんのよ!?ニッポン」が切っ掛けとなり、我々福祉介護の世界にも応用されるかも知れない。番組の内容はこう。

人口動態や介護、医療、格差、消費など様々な社会を映し出す5000を超える公共のデータの関係性を、AI（人工知能）が解析するという。結果わかったことの一つ「40代一人暮らしが日本を減ぼす？」というセンセーショナルな仮説の分析が、関係者の関心を深めたようだ。しかし言うまでもなく、40代一人暮らしと日本が減ぶは直接には関係はない。関係はないが関係はある。ややこしい理屈がそこには存在する様だが‘風が吹けば’も、やがては数値分析されるのであろうか。

現在、そういった仮説に基づく分析は食品業界や犯罪対策に活用されているようだが、先日、私どもの相談員にそのような仮説はないかを聞いてみた。AIという言葉に距離を感じる私とは違い、コンピューター世代の二人はすぐさま理解し、早速幾つかの仮説を立ててくれた。例えば

「特養の入所者が増加すると景気が上昇する？」

「特養で働く職員の満足度が高いほど地域住民の幸福度は高い？」

字数の都合上その根拠は示せないが、どれもこれも勝手な想定とは言え、まんざらでもない理屈に思わず納得してしまう。

そこにコンピューターという感情や気分には左右されず、寸分違わない英知が絡むと、仮説は仮説ではなくなりやがては定説となるのであろうか。

入職の頃にもてはやされた言葉に‘経験と勘’がある。時代は変わり、科学的介護の勢いに押され今では死語に近い。しかし、AIにはないぬくもりがそこにはある。人と人との交わりがある。

AIに一方向的に惑わされることなく、うまく融合したいものだ。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- 特別養護老人ホーム やすらぎ園
- 在宅サービス事業所
- 居宅介護支援事業所
- 訪問介護事業
- 訪問入浴介護事業
- 短期入所生活介護事業
- 在宅介護支援センター
- 天理市東部地域包括支援センター
- ケアハウス やすらぎ
- 介護予防関連事業
- グループホーム むつみあい
- 住まいの生活支援事業